

スズメバチ対策マニュアル

松戸里やま応援団

近年、スズメバチに刺される被害が増えているので、各種文献や連絡会での議論を踏まえて「スズメバチ対策マニュアル」を作成しました。
執るべき措置についての簡潔な記載としました。

1. 日常の準備

1.1 団体の準備

- (1) このマニュアルを会員に周知徹底する。
スズメバチの活動シーズン前に、一度はスズメバチ対策を全員で再確認する。
- (2) ポイズンリムーバーを常備しておく。活動中は、誰かが携帯しておくようにする。
- (3) ポイズンリムーバーの使用方法来に全員が習熟するようにする。
(機種によって使い方が異なる場合があるので、事前に使い方に慣れておくとうい)
- (4) 森の所在地を確認し、倉庫扉の内側など、誰でもわかるようにしておく。
(森には住所はないので、救急車を止めてもらうべき路上に面した住宅の住所を明記しておく)
- (5) ハチマグナムジェットなどの強力な殺虫剤を常備しておく。

1.2 個人の準備

- (1) 氏名、血液型、家族の緊急連絡先を明示しておく。
(名札の裏やヘルメットの内側等、記載場所を団体毎に統一しておくことが望ましい)
- (2) スズメバチに刺された経験のある人は、抗体検査をしておく。
刺された経験のない人も検査しておくことが望ましい。
- (3) 抗体が陽性の人は、医療機関の診察を経て、エピペンを手し、使用法を練習しておく。
エピペンは、カバンの中ではなく、活動時は身につけて携帯する。

2. 作業にあたっての注意

- (1) 黒や濃赤の服装は避ける。香料等は使用しない。
できるだけ肌の露出を避けた服装にし、手首や足首、首回りなどは締めておくこと。
- (2) スズメバチの巣の存在や飛翔等に常に注意を払うこと。
(オオスズメバチは軟らかい地面や木の洞や堆積した枝葉の隙間など。
キイロスズメバチは木の枝や軒下など)
- (3) あまり人が立ち入っていない個所に入る場合は、巣の有無に特に注意する。
(状況によっては、離れたところから石や枝などを投げて、反応を確かめるなども)
- (4) オオスズメバチが巣をつくりやすい状況を作らないようにする。
(枝葉を積み上げる時は、できるだけ隙間を開けないようにする)
- (5) ジュース等の空き缶にはキイロスズメバチが入っていることがあるので、注意すること。

3. スズメバチの巣を発見した場合の対応

- (1) その場所から静かに離れ、速やかに全員に知らせる。
- (2) 日常の行動範囲から高さ・距離が離れている場合は、注意表示や立入制限の措置をとる。
- (2) 活動に不可欠の場所や一般市民に危害を及ぼす恐れのある場所に巣がある場合は、市役所すぐやる課に撤去を依頼する。

4. スズメバチに遭遇した時の対応

- (1) スズメバチの飛翔を確認した場合は、できるだけ姿勢を低くして静かに後退し、他者に知らせる。
- (2) スズメバチにまとわりつかれた場合は、目を閉じて静かにしゃがんで飛び去るのを待つ。
(手で払ったりしない。近くにいる人は、離れた所からハチの行動を監視し、当人に状況を伝える。)
- (3) できればスズメバチが飛び去る方向を確認しておく。

5. スズメバチに刺された場合の対応

- (1) 刺された場合は、速やかに静かに離れ、他の会員に知らせる。
刺したハチを払ったりしない。ハチの種類を確認しておくことが望ましい。
- (2) ポイズンリムーバーを使って毒液を吸い出す。
口では吸わない。水があれば洗い流す。
- (3) 傷口に軟膏（抗ヒスタミン系成分を含むステロイド系軟膏）を塗り、濡れたタオルなどで傷口を冷やして安静にする。刺されてから 20～30 分経っても強い症状が表れない場合は危険性が低いと考えられるが、応急処置の後は速やかに皮膚科を受診する。
- (4) 抗体がある人が刺された場合は、エピペンを使用する。
- (5) アナフィラキシーショックの恐れがある場合は、迷わずに救急車を手配する。
(動悸、めまい・ふらつき、呼吸困難、吐き気、意識の朦朧などは救急車)
- (6) 消防署への連絡は、局番なしの 119 番。(千葉北西部消防指令センターにつながる)

電話で伝える要点、

- ① 救急であること。スズメバチに刺されたこと（分かればハチの種類、刺された数）
- ② 場所（森の中ではなく、救急車に来てもらう路上に面する住宅の住所
(例：松戸市金ヶ作 199-2 グループホームひなたぼっこ前)
- ③ 刺された人の性別・年齢、症状と執った対応
- ④ 通報者の氏名

ハチに刺されたら薬を塗る

<https://t-meister.jp/blog/hachi-syochi/>

毒を薄めたら、傷口を虫刺され用の薬でケア。抗ヒスタミン系成分を含むステロイド系軟膏が適切。抗ヒスタミン成分とは、一般的にはじんましんやアトピーなどの症状緩和に使用されるもので、痒み止めの効果がある。ステロイド成分は、「副腎皮質ホルモン薬」とも呼ばれ、炎症やアレルギーを抑える働きがある。

抗ヒスタミン：一般的な痒み止め軟膏や虫刺され軟膏に使用されている

ジフェンヒドラミン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩

ステロイド：皮膚の炎症や痒みを抑える。

プレドニゾロン酢酸エステル、プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル、デキサメタゾン酢酸エステル、ヒドロコルチゾン酢酸エステル

どちらも特別な薬ではなく、市販の虫さされ薬によく配合されている。

薬局で蜂に刺されたと伝えるとよい。

■**デルモゾール DP 軟膏** 0.064% (ベタメタゾン ジプロピオン酸エステル)

リンデロン-DP 軟膏 0.064%の後発薬:ハロゲン系ステロイド(2群: very strong [非常に強力])。炎症を鎮める作用が強いことで 短期間で皮膚炎を抑え、腫れや赤みをすみやかにとり、かゆみや痛みを緩和。

■**デルモゾール G 軟膏**

リンデロン-VG 軟膏 0.12%の後発薬:ハロゲン系ステロイド(3群: strong [強力])。

炎症をとるステロイドの“ベタメタゾン”と、細菌をおさえる抗生物質の“ゲンタマイシン”が配合。

傷口を冷やす

薬を塗ったら、濡れたタオルなどで傷口を冷やして安静に。血の巡りが良くなると腫れがひどくなる。そして、できるだけ医師の診察を受けてください。蜂毒は反応が早いので、刺されてから 20~30 分経っても強い症状が表れない場合は危険性が低いと考えられるが、自己判断は危険。刺された相手がスズメバチならなおさら。応急処置の後は速やかに皮膚科を受診すること。

ショック兆候が出たら大至急病院へ

痒みや熱感のほか、頭痛、めまい、嘔吐、呼吸困難などの強い兆候が出たら「アナフィラキシーショック」の疑いがある。蜂毒へのアレルギー反応で引き起こる症状で、最悪の場合命を落とすため、救急車を呼ぶ。アナフィラキシー対策としては、医師から「エピペン (アドレナリン自己注射薬)」の処方を受け、症状の進行を緩和し、有効。エピペンを投与後も必ず病院にかかること。

スズメバチに刺されないために（対策マニュアル-1）

1) ハチ刺されはマムシやハブより怖いことを知っておこう

日本で1年間における、ハチに刺されての死者は約20人以上。一方、マムシに咬まれての死者は数人。ハブはゼロという年が多い。つまり、ハチ刺されはマムシやハブより怖いことを理解して対処しよう。

ハチの中でも特に怖いのはスズメバチとアシナガバチ。アシナガバチは住宅街でもいたるところに巣を作るし、凶暴なキイロスズメバチやオオスズメバチは松戸のような都会に近いところの森の中にも巣を作ることが多い。

スズメバチが狂暴になるのは夏～秋の時季。春～夏は冬眠から目覚めた女王バチが一所懸命働きバチを産み、巣作りに専念しているので、凶暴さは少ない。夏から秋の終わりにかけて、翌年の新女王バチを産み、世代継承を図るころが狂暴になり、特に怖い。

2) とにかく巣に近づかないこと、巣の存在に早く気が付くこと

オオスズメバチは閉鎖空間に巣を作る。柔らかい地面の中や、木の枝や葉っぱを積み上げた中の隙間、木のウロの中など。森の中を歩くときは、通路や通路脇に積んである枝や葉っぱの中に巣がある可能性がある。もちろん、木のウロが高いところにある時はそこにも巣を作ることがあるし、キイロスズメバチはこうしたところはもちろんのこと、オープンな空間にも巣を作る。だから高めの木の枝や、建物の軒下などにもぶら下がるように作られることがある。

スズメバチの方も巣を守るために、偵察バチを飛ばすなど、巣に敵が近づかないように見守っている。これに早く気が付き、巣に近づかないようにしよう。巣があることが分かったら、ロープを張るなりして、対処すべし。

3) 注意していても、スズメバチに遭遇してしまうことがある。

そうなったら とにかく目を瞑り、フリーズ。じっとして動かないこと。ゆっくりしゃがみ、後ずさりして、そっと逃げる。手で払ったり、走って逃げたりしない。スズメバチは黒いものに攻撃を仕掛ける性質があるし、手で払ったりすると攻撃されたと思って逆襲してくる。

4) 黒っぽい服装は避ける。

スズメバチのいる可能性のある所へ行くときは、黒っぽい服装は避ける。頭にも帽子をかぶり、黒い髪は隠す。女性はお化粧の匂いをさせない。着るものも、全身をきちんと覆い、肌に見える隙間を作らない。

5) スズメバチトラップの作り方

少しでもスズメバチを減らすためのトラップ。2リットルのペットボトルの平らな面の両側に十字に切り込みを入れ、内側に折り曲げれば完成という簡単なもの。中に誘引液体を底から数センチ入れて、木に吊るしておく。

誘引液体

- ・ グレープ味の乳酸菌飲料(ぶどうジュースとヤクルトを混ぜて使ったが OK)
- ・ 日本酒 180 cc + 酢 60 cc + 砂糖 75 g (ぶどうの実を加えるともっと良い)
- ・ 日本酒 + 蜂蜜 〈8対2〉

6) いざという時のために

スズメバチ対策は予想しない何かが起こるかもしれない。いざという時のために、殺虫剤を用意しておこう。普通のキンチョールで効くが、これはガスが遠くまで飛ばない。ガスが遠くまで飛ばずハチアブマグナムジェットも用意するとよい。説明文を読むと「スズメバチを除く」とか、「オオスズメバチを除く」とか書いてあることがあるが気にしなくて良い。

ハチに刺されてから、生命を守るために（対策マニュアル-2）

1) ハチに刺されたら-1

どんなに注意をしても、ハチにさされてしまうことはあるものだ。刺されても自分の命を守るためにどうしたらいいかを良く知っておこう。

スズメバチに刺されるのが初めての時は、命の危険にさらされることは多くはない。（中には初めてでも、危険なことになる人もいないわけではない）

2回目、3回目になると危険度が増す。

始めてスズメバチに刺されたという人は、皮膚科に行き処置を受けるとともに、ハチアレルギーがあるかどうかの検査をしてもらおう。検査結果によっては、エピペンを処方してもらい、それ以降は所持するようにしよう。

スズメバチに刺されるのが2回目以上という人は、刺されたら救急車を呼び、緊急に病院へ行こう。（もちろん、不安な人は初めても救急車を呼ぼう）

2) 救急車を呼ぶときの注意

今の消防署の体制は、多くの自治体共同の広域体制になっている。地元のことはあまり知らないことを前提に通報しよう。住所を伝える時も「〇〇市の…」から言おう。もちろん、住所がきちんと言えるようにしておこう。ボランティアの場合、フィールドの住所を言えないことが多い。電話をかける時は森を出て、かけること。消防は地図で携帯の位置をGPSで確認している。それが森の中からだと、位置は確認できても消防車がたどり着けない場所と判断されて、出動してくれないことがある。森の外の民家などの住所を調べておいて、「〇〇市××の△△さん宅の前」などと伝えるのがよい。

3) ハチに刺されたら-2

ハチ毒を吸い出し、水で洗うとともに冷やす。刺されたら、ハチ毒を少しでも吸い出す。針が残っていれば抜く。吸い出すときに、口では吸わないこと。ポイズンリムーバーという吸引器を用意しておいて使用すること。

ポイズンリムーバーを救急箱に用意されていても、いざという時にそれがすぐ活用できる人員と意識の体制になっているかが問題である。その意識を皆が持つべし。

吸引した後は、できれば、ハチ毒は水で溶けるので水で洗い、その後冷やす。

軟膏は炎症をしずめ、かゆみや痛みを緩和する効果がある。デルモゾールDP軟膏、リンデロン-DP軟膏、デルモゾールG軟膏、リンデロン-VG軟膏など薬局に相談する。

4) アナフィラキシーショック

スズメバチに2回、3回と刺されると、ハチ毒によるアレルギーショック症状が現れる場合がある。（初めてでも出る場合や、アシナガバチでも出ることもある）

これは体質によるもので、何度刺されても平気な人もいる。

ハチ毒によるアナフィラキシーショックは、短時間のうちに全身性のアレルギー症状が出る（10～15分と言われる）初期症状は、体がかゆくなったり、ブツブツなどジンマシンに似たもの。さらには血圧が下がって、ファ～と記憶が遠くなる。

酷くなると死に至る。死に至るまでに1時間以内と言われるので、スズメバチに2回、3回と刺された回数が増えた時は、救急車などの緊急体制を急ぐ必要がある。

エピペンという名の自己注射液がある。刺されたアレルギーショックを弱めるために緊急で自分で自分に打つ注射器で、アレルギー体質と判断されたり、刺されたことのある人は常に持っていよう。医師の診断で必要とされた人は保険が有効で購入できる。アレルギー症状が出そうな人や、少しでも現れたら、すぐ打とう。